

提出 順番	No. 3	令和 3 年 6 月 16 日 午前・午後 4 時 00 分受領
----------	----------	-------------------------------------

令和 3 年 6 月 16 日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

幕別町議会議員 岡本 眞利子



## 一般質問通告書

次のとおり通告します。

質問事項	質問の要旨
1 ヤングケアラー支援について	<p>近年、中高生らが家族の世話や介護、家事などに追われる「ヤングケアラー」が問題になっています。ヤングケアラーとは本来大人が担う介護や家事、幼いきょうだいの世話を日常的に担っている18歳未満の子どもを指し、核家族化や高齢化、共稼ぎ、ひとり親家庭の増加といった家族構成の変化により、子どもがケアの担い手にならざるを得ない状況が背景にあるようです。</p> <p>今年4月、厚生労働省と文部科学省が連携して実施した「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」の結果が公表されました。それによると、中学生では5,558人の5.7%が世話をする家族が「いる」と回答、頻度は45.1%が「ほぼ毎日」と答え、「週に3～5日」17.9%「週に1～2日」14.4%、平日1日に世話に費やす時間は平均4.0時間。「3時間未満」42.0%と最も多かったが11.6%が「7時間以上」と報告されています。</p> <p>年齢や成長の度合いに見合わない負担がかかることで、本人の通学や勉学に支障が出るのが課題となり支援の必要性が指摘されていることから以下について伺います。</p> <p>① 本町におけるヤングケアラーの存在と認識は</p> <p>② ヤングケアラーについての教員の認識は</p> <p>③ 本町として実態調査の必要性は</p> <p>④ 今後の支援策について</p>

2 「ご遺族支援(お  
くやみ)コーナー」  
の設置を

日本は少子高齢化に伴い、年間死亡率は年々増加傾向にあります。本町においても昨年1年間でおおよそ320の方が亡くなっています。身内が亡くなった際の手続きは、遺族にとって悲しみの中で行わなくてはならず、その負担は大きいものであります。高齢の配偶者が手続きを行うケースや、親族が遠方、または疎遠になっているケースも予想できます。

大分県別府市では、2016年に職員の提案から「おくやみコーナー」を開設し、遺族の悲しみに寄り添い手続きを一括して進めるサービスを実施しております。

住民サービスの向上とともに手続きの一元化による住民負担の減少となる「おくやみコーナー」を本町においても開設すべきと考え以下について伺います。

- ① 死亡に伴う手続きの種類は
- ② 手続き効率化について町独自の取り組みは
- ③ 今後、よりわかりやすい「おくやみのしおり」、「ハンドブック」等を作成する考えは

(注) 質問の要旨は、具体的に記載すること。